

長寿祝金、交通費助成、あんま等施術助成、介護 保険利用者の食費負担軽減制度の四高齢者福祉制 度の存続と拡充を求める要望書

2009年2月4日

福山市長 羽田 皓殿

日本共産党福山市議会議員団

村井 明美

高木 武志

土屋 知紀

式部 昌子

福山市は、高齢者への長寿祝金支給制度、老人交通費助成制度、あんま等施術助成制度など、高齢者への3福祉事業を廃止、縮小する方向を打ち出しました。

また、介護保険利用者の食費負担軽減制度を廃止しようとしています。

長寿祝金制度は、77歳への支給を取りやめ、88歳、99歳、100歳以上への支給額を一律、2万円に引き下げる、としています。

老人交通費助成制度については、所得制限を導入し、支給対象人数を狭めようとしています。

あんま等施術助成制度については、代替事業へ転換するとして、制度そのものを見直そうとしています。

民生福祉委員会の答弁では、これら3制度の廃止・縮小は、新年度の予算案に反映させる、としています。

また、介護保険利用者の年間5千円の食費負担軽減制度の廃止も計画されています。

これらの制度は、福山市独自の補助制度として定着し、高齢者の生活と健康を支えてきたものです。制度を取り巻く「課題」については、広く高齢者の声を集めたものではなく、福山市が一方的に定めたものであり、関係者や高齢者の声が反映されたものとは言えません。

福山市が提示した方向は、高齢者を狙い撃ちにした福祉削減であり、高齢者を取り巻く生活実態を鑑みれば、制度の縮小どころか、拡充こそ求められます。

高齢者福祉に関わる4事業の縮小の見直し方向を撤廃し、制度の拡充を行うことを求めます。

以上